

みんなが生き残るために

足羽第一中学校

一年

まえかわ

ゆうた 悠太

みなさん、毎年何回土砂災害が起こっているか知っていますか。その数、約千百回も起こっているんです。一年間にこんなにも土砂災害が起こっていると考えるとおどろきませんか。現実からは考えられない数起こっていますよね。土砂災害に巻き込まれた被災者の方々はこう思っています。「ハザードマップで避難経路の確認をしておけばよかったな」と。災害とほ私達にとって恐ろしいことです。ですが、ひんぱんには起こらないことなので意識の低さやハザードマップの見方が分からぬなどの理由で被害に巻き込まれる人が多々です。中には、避難経路を確認していたけどあせて冷静な行動ができず、思い通りに行動できなかつたという人もいます。しょう。災害は急に起こります。そんな中で冷静に行動するというのはとても難しいことです。ですが、土砂災害という私達にとって

恐ろしい出来事から命を守るためには冷静に行動をし、ハザードマップなどの被害予測図を利用することがとても重要なのです。土砂災害だけではありません。他にも地震や津波、台風、洪水など、多くの自然災害から身を守らないといけなりのです。

二十一年三月十一日のある日、東日本大震災が起こりました。父方のおばあちゃんから話を聞きました。おばあちゃんはその日いつも通りスーパーで仕事をしていたそうです。

休けい時間るときにテレビを見たら、すごいことになっていたと言っていました。津波が押し寄せていて、「はやくにげてー」などの声があふいて、現場はパニック状態。福井には直接的な津波の被害はなかったが、一部では土砂災害などの被害が発生しました。おばあちゃんも仕事をしてきたスーパーでは大騒ぎ。カップラーメンやごはんのパック、紙製品など被害先に送るためのものを買いに、人がおしかけてきたと言っていました。東日

本大震災が起こった次の日、おばあちゃん達は友達とあつ約束をしており、場所に向かうさい、金沢や富山からたくさん人の消防東が応えんに向かっているさいゅうでした。一乗谷や美山も泥らんし、水があふれ、渡れなくなつており、水が流れ込んできたお店も多々あつたようです。

今から十四年前は災害への意識がより低かつたでしょう。現在でさえ、避難場所の認知率は多少あつたとしても、避難経路の認知率はまだまだ低いのです。ハザードマップといふことも重要性の高いものがある。でも、その使い方が分からなかったり、情報量が多くて見方が複雑だったりなど、改善点が多山ほどあります。他にも、若い者ほど認知度が低いのも要因と考えられます。そこで、ぼくは小さな子供から高れい者まで、災害への意識を高めるにはどうすればいいか考えこみました。

僕は災害へ対する意識を高めるためには、やはり、ハザードマップや防災バツクの確認

日頃からの情報が大事だと考えました。現在は若者の意識がとても低いと思います。経験値が少ない分、災害への危険性がそこまで深く理解できていません。僕も災害が起きたときの動画をみて、危険性はとても理解できましたが、自然災害とはいつどこで発生するか分からないことなので、実際起きたのを相後すると、絶対に冷静な行動なんてできななと感じます。だから、若者は災害が起ったときにとっさに行動ができず、被害にあう人

が多いのかなと思いました。高れい者は危険性が分からなくても、体力などの部分もあり、周囲の状況が悪いと、安全なところへの避難が危険だったりもするため、若者の理解度が高まることで人々が助け合うことができると考えました。

ぼくは、今回災害への意識を高めるにはどうすればいいか考えてみて、一人一人が災害の危険性を知り、自分の命を守ることを一番に考えて行動することが重要だと考えました。

家族や友達、辛い人がいたら助けるのはもちろんです。大切な人を失わないためには悪ふかけを避けるような人をなくし、一人一人が素早く行動することで被災者を救済することもできます。全員が災害への意識を高めることで、誰かが行動したから行動するのではなく、自分から進んで行動するという、とても良い形になると思います。最近もよく地震が起きていました。テレビなどでのメディアによって、情報がはやくまわったため、今回は被害をおさえることができましたが、大きな災害がおこった場合世の中はパニックにおちいります。次はいつくるかわかりません。そのためにも世代関係なく、災害への意識をたかめていきたいです。